

---

復讐教室～青年は、少女を護る～  
仮面ライダーデラックス

---

暁～小説投稿サイト～ By 肥前のポチ

<http://www.akatsuki-novels.com/>

## 注意事項

このPDFファイルは「暁々小説投稿サイト」で掲載中の小説を「暁々小説投稿サイト」のシステムが自動的にPDF化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「暁々小説投稿サイト」を運営する肥前のポチに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

復讐教室〜青年は、少女を護る〜

### 【作者名】

仮面ライダーデラックス

### 【あらすじ】

これは、もし北郷一刀が復讐教室の世界に行ったら、藤沢彩奈が北郷一刀に恋する設定です。こんなのは、復讐教室じゃない方はどうぞご退出ください。責任は、問いません。

作者的に、藤沢彩奈が好きなので死なせたくないのです、このような話を書くことにしましたどうぞよろしくお願いします。

## プロフィール

☆北郷一刀（ホンゴウ カズト）

強さ：演技Ⅱ一般人 C

本当の実力Ⅱ真の達人級 SSS

武術：北郷流

特殊能力：スーパー覚醒人Ⅱ自分の意志でいつでも変身出来るが北郷一刀は本気で許さない奴にしか使わない（ドラゴンボールZのスーパーサイヤ人と同じ）髪の毛が白くなる

## 設定

恋姫の主人公。元の世界では、「世界最強の武器使い」または「超人」と呼ばれていた。表では、目立たない行動をされていて自分の強さを隠している。実力は、ドラゴンボール超のスーパーサイヤ人ブルと同じ。殺し技に関しては、呂布を超えている。恋姫の皆には、ばれていない。今回は、復讐教室の世界で主人公である藤沢彩菜を助ける行動に出る。

## 第一話

一刀 「ここは、・・・・・・・・どこだ？」

俺こと北郷一刀は、不思議な体験をした。それは、目が覚めたら三国志の世界にいた。しかし、武将達は全員女性だった。俺が仕えたのは、魏の霸王こと曹操孟徳である。真名は、華琳という。世界で一番俺が愛した女性だった。他の武将や軍師達も大切な人たちだ。が、しかし俺は、皆を裏切ってしまった。占い師がいていた「対極に逆らうな、逆らえば身の破滅」と忠告された。赤壁の戦いで勝利し、定軍山で秋蘭は死なずそして蜀、魏、呉の三国同盟が結ばれた。そして、俺は華琳の目の前で消えた。

???? 「目覚めたか・・・天の御使いよ」

一刀 「だれだ!!」

俺は、声を発し周りを見たそしたら目の前に知ってる人物がいた

???? 「久しぶりじゃな、青年よ」

一刀 「!?!?・・・お、お前はあの時の占い師!!」

俺に身の破滅を忠告した占い師が出てきた。

占い師 「青年よ、後悔はあるか？」

一刀「後悔？ いったいなんの・・・」

占い師「あの少女達と一緒に人生を歩みたかった事じゃよ」

一刀「！！！！」

そう、最初は早く元の世界に帰りたく必死だった。しかし、だんだんと華琳たちと一緒に生活することが楽しくなっていた。これかもずっと暮らしていけると思った。しかし、現実残酷だった。

占い師「帰りたいか？ あの世界に」

一刀「！？ 帰れるの「ただし・・・」なんだよ・・・」

占い師「お主には、漫画の世界に行ってもらおう」

一刀「漫画の世界？ もしかして三国志みたいな戦争がある世界か？」

占い師「いや、お主が知っている小説じゃ」

一刀「小説？」

占い師「うむ、タイトルは「復讐の唄」こと漫画では、「復讐教室」じゃ」

一刀「・・・・・・・・・・・・・・・・」

占い師「んっ？どうしんじゃ鳩が豆鉄砲みたいな顔して」

一刀は、呆然としてワナワナ震えだし・・・

一刀「いやいやいや！！！！おかしいだろ！？何故に復讐教室！？」

占い師「それは、言えん。ただその世界で1年過ごせばミッションクリアじゃ」

一刀「は？それだけでいいのか？」

一刀は、予想した答えとまったく違った。何らか目標をしなければいけないかと思った。するとある疑問が思い浮かんだ。

一刀「なあ、占い師さん」

占い師「何じゃ？」

一刀「たしか最終的に主人公の「藤沢彩奈」は、四階から地面に叩き付けられ死亡したんだよな？」

占い師「うむ、じゃからお主がその藤沢を死なせないように行動するか、復讐をやめさせるか、虐めをなくすか、それはお主の行動しだいじゃ」

一刀「・・・なるほどな・・・分かったよ占い師さん」

占い師「うむ、では……さっそく行って来い!!」

バカン!!

一刀「えっ？」

一刀は、下を見たそしたら穴が開いており当然結果は、……

一刀「うそ――――――――――」

そのまま消えていき見えなくなった……

???「行っちゃったわね〜寂しいわ〜」

???「しかし、ご主人様ならあの少女の心を癒すことは、出来よう」

占い師「んっ?おお、貂蟬殿に卑弥呼殿では、ありませんか」

一刀が消えた後に占い師の後ろからマッチョな二人がいた。

貂蟬「それにしても、珍しいわね〜あなたがご主人様のために行動するなんて〜」

占い師「いやいや、長生きすると人間変わるもんじゃないよ……それに……」

貂蟬「それに？」

占い師「あの青年ならどんな女性も引き寄せる力を持っておる・  
・虐められている人間すら救えると思ったからじゃ。」

卑弥呼「はっはっはっは！！！！たしかにご主人様ならありえるの」

卑弥呼は、高笑いした。それに引き続き占い師と貂蟬も笑い出した。

占い師「さて、わし等も行きますかの」

貂蟬「ええとご主人様の行動を無駄にしないわく」

卑弥呼「うむ、何としてでもあの世界に帰さねばな！」

三人は、意気投合し作業に向かった。



しかし、この時に気づいていなかった管理者の否定側の二人が動いているのを・・・

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
[http://www.akatsuki-novels.com/stories/index/novel\\_id~8362](http://www.akatsuki-novels.com/stories/index/novel_id~8362)

---

復讐教室～青年は、少女を護る～

2017年04月24日 03時08分発行